◆質問フィードバック

質問シート・参加者アンケートを通して、参加者のみなさまからいただいた質問について、話題提供の講演をされた福岡県立社会教育総合センターの岡田紗知さんより、コメントをいただきました。

Q	多世代交流を目的とするイベントとはどのようなものがあるか。
A	私の幼少期の経験から具体例を 2 つ挙げます。1 つ目は、生涯スポーツのイベントです。グラウンドゴルフやボッチャ、卓球等、全ての人が楽しめるスポーツを、幅広い年代でチームを組んだり、競い合ったりします。その中で、協力し合い会話がうまれることで、楽しみながら多世代の交流が促されると考えられます。2 つ目は、折尾まちづくり記念館等の施設で、各講座の発表会、催しを開くことです。これは、生涯学習の講座が盛んに行われていることが前提にはなりますが、各講座での成果や作成したものを持ち寄って、1 つの場所に集まるようにします。ステージで発表したり（歌やダンス等）、バザー形式で完成したものを披露したり（料理や裁縫等）、多世代で多様な人が、一度に集まって交流できると考えられます。私は幼少期に市民センターの講座でどちらも経験しましたが、実際に様々な人と関わる楽しさや、地域の人の賑わい、一体感を感じることができました。町の活性化には、町の人同士の関わり合いが不可欠であり、交流の場が多く展開されることを願っています。

Q	駅を通勤などで利用する社会人も参画できるものか。
A	もちろん参画できるものを展開するべきです。シンポジウム内で挙げた「むなかた市民学習ネットワーク」でも、宗像市に住む人だけでなく、宗像市に通勤・通学している人も含まれています。折尾の町を活性化するために、折尾の町を交流の場にしたいという思いがあるので、外からも人が行き来する仕組みを作りたいです。

Q	多くの大学生がインターカレッジのように集まってオリオンクラスを運営することは実現するのか。
A	地域と大学、大学同士の連携を確実に取り、情報を提供し合うことと、運営に参加する学生に対しては、大学教授の推薦や面接等によって参加が可能になる仕組みを作ることが必要だと考えられます。また、大学の授業内で講座やイベントを開くことも可能だと考えられます。シンポジウム内で挙げた学習塾のように、人を相手にするものであり、興味や意欲だけでなく、責任を持って運営に参加できる学生を集えば、運営も円滑に進むのではないでしょうか。そして、その運営には必ず管理者（記念館の職員や大学教授、地域の指導者等）が支援に入り、その中で学生同士で運営していくことが不可欠です。

Q	記念館でどんなイベントがあると大学生が参加するか。
A	大学生が興味や関心を持てるものや、学習、経験になるものが有効だと考えられます。大学生にも様々なニーズがあるので、多様なイベントがあって良いと思います。例えば、休日に折尾で遊びたい時に、「折尾　イベント」とインターネットで検索して出た興味があるものには「行ってみようか！」と立ち寄りたくなりますし、資格や進路のために経験するべきものには参加する大学生も多く見られるのではないでしょうか。より具体的な例を挙げると（個人的な考えにはなりますが）、地域のご飯屋さんやカフェ等のマルシェがあると、休日のイベントとしては非常に参加したくなります。それぞれのお店で人気なものや注目するべきものが一度に集まるマルシェは魅力的ですし、若者だけに限らず、幅広い年代で、折尾の外からも多くの人が集まります。まずは、身近に楽しさを感じられるようなイベントで、折尾まちづくり記念館の存在を知る機会を設けることで、大学生の利用者も増加していくのではないでしょうか。

～シンポジウムを終えて～

今回、このような貴重な機会をいただき、ありがとうございました。安藤理事長や市原先生のお話からも、折尾の町や町づくりの今後に関して、非常に貴重な学びを得ることができました。改めて、社会教育や町づくり、地域の活動に、今後も携わりたいという思いが大きくなりました。

若い世代からの意見を今回は発表させていただきましたが、やはり多世代、多様な分野の連携・協力が今後も必要であるように思いました。シンポジウムによって、折尾の町の活性化につながる意見交換をできました。このシンポジウムのような活動を含め、行政や事業者、学生等、多世代、多様な分野の人が集まって、様々な意見を出し合い、折尾の町をより良くしていく仕組みを、ぜひ設置し継続してほしいと願っております。

今後も折尾の町づくりに携われるかはわかりませんが、今回のシンポジウムで、町の活性化への一歩に少しでも貢献できていれば非常に嬉しく思います。改めて、このような機会をくださった皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。